



カエルの^{たまご}卵から、カエルの^{しゅるい}種類はわかるの

時期、場所、卵の様子で見分けがつく

日本には、およそ40種類のカエルがいます。でも、だれもがよく見るカエルというと、数種類になります。産卵の時期や、場所、産みつけられた卵の様子から、どのカエルの卵か、おおよそ、見分けることはできます。

寒い時期に見つかる卵

まだ寒い2～4月初めごろ、田んぼ、川原の水たまり、池などの浅い底や、水草の間に、全体がブドウのふさのような大きなかたまりになっている卵があれば、ヤマアカガエルか、ニホンアカガエル、エゾアカガエルなどでしょう。

3～4月ごろ、水底のどろの上に、長い長いひものような形の、ゼリーに包まれた卵が見つければ、ヒキガエルの卵です。

5～6月ごろ見つかる卵

5～6月ごろ、水草の間の水底に、丸い大きなかたまりでしずんでいるのは、トノサマガエルの卵で、ねばねばしています。水草に10個とか、30個ぐらいずつ、小分けしたかたまりをくっつけているのは、アマガエルとか、ツチガエルなどの卵です。このころは、水辺の植物がたくさんしげっていて、卵は、なかなか見つけにくいものです。

山の川辺で見つかる卵

山のわき水の近くで見つかる小さいかたまりで、卵が大きいものは、タゴガエルです。山の川、ぬま、池の上などにつき出た木の枝で見つかる、白いあわのかたまりは、モリアオガエルです。（監修・今泉 忠明）

